



戸杓天満宮の 行事について



① 榎の葉

3月16日のことです。戸杓天満宮の行事についてご案内を受け、尾崎学芸員とお伺いしました。

ここでは春・秋の彼岸に近い日曜日に、まず道造りが行われ祭事があります。道造りとは神社の周りを草払いなどをして神様が戸杓部落に集まるように道を造ることです。そして春は豊作とそれぞれの家庭が安泰であるように祈願祭を行い、秋は稲の豊作と日常の平穏な暮らしの『願成就』を行います。私の推察では、昔は神社に願かけのお籠り（おこもり）をしたり、鳥居を左、右と回ってお祀りをしていたのではないかと考えています。

今回、春の行事にお伺いして一番興味を持ったのが榎の葉365枚を裏白（うらじろ）の幹に通して、ご神前にお供えされることでした。神社行事の資料を調べましたが、これは珍しい行事なのです。神事で榊（さかき）がないときは榎を使いますが、何故榎なのか、何故裏白なのか調べました。

まず、「何故、榎なのか」

戸杓部落の皆さんが、それぞれ榎の葉を持ち寄り、5枚ずつ取って神様への御賽銭（おさいせん）とし、これを長老が受取り、裏白の幹に5枚ずつ通し365枚重ねてゆきます。（写真①参照）

何故榎なのか、私なりの解釈ですが、榎は「神集」（かしわ）に通じるということです。ご存じのように農耕社会になってから「神祭り」が始まりました。

初めの頃は神籬（ひもろぎ）を立て神様をお迎えしていたのですが、のちに神の社（やしろ）となったのです。神祭りでは祝詞、神饌を捧げ、この後「直会」（なおらい）と言って食事を共にいたします。（写真②参照）よって榎は戸杓天満宮に神が集まる神集（かしわ）であるわけです。



② 直会

戸杓部落では365枚の榎の葉を裏白に通してお供えします。榎の葉を御賽銭にする、この賽の字は神さまへのお礼参りの意味があります。場所によっては米を紙に包んだ「おひねり」をあげるところもあります。即ち一年を通じて各世帯が何時も安心、平和、幸福であるようにと祈りを込めたと思うのであります。

およそ神木と言われるものに榊、榎、櫟、榎、棕、柏、椎、銀杏、杉、松、楠、桜、梅、桂、藤があります。（古事類苑より）それは常世信仰につながる変わらぬものへの憧れです。

次に何故裏白なのか。

戸杓天満宮では、榎の葉を裏白の幹に通しました。それは裏が白いことから心が清く、白髪になるまで長生きするよとの意味が込められているのです。

このように戸杓部落の皆さんが、地区の安定と融和をはかられていることは素晴らしいことです。

心を洗われる思いで、帰路につきました。

（久富 桃太郎）

皿 季 刊 山 夏

No.58

シリーズ ザ・陶器市

陶器市物語

最終回

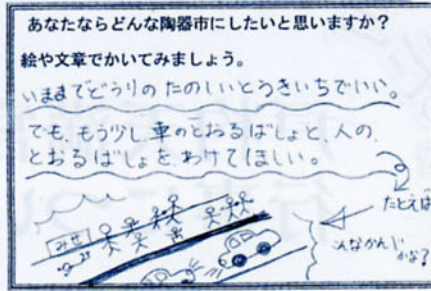
企画展

「100回目の有田陶器市」展終了

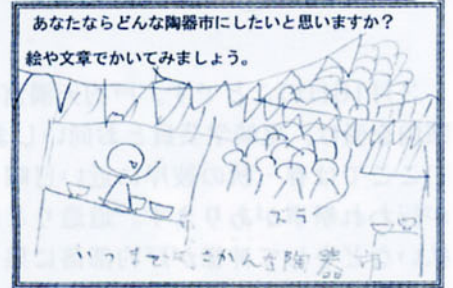
3月21日（金）から5月11日（日）まで開催した企画展「100回目の有田陶器市」展はこのほど終了しました。明治29年を第1回として出発した有田陶器市の歴史を、文献や作品などの資料によって紹介したものです。

会場ではデジタル・アーカイブ事業の一環として、有田町役場の企画情報課、大有田焼振興協同組合、有田工業高校などに協力いただき、昭和28、9年ごろの陶器市の映像や、有田陶磁美術館所蔵資料の上映も常時行いました。

また、陶器市開催を前にし、時機を得た企画でもあったため、町内外の方々はもとより、各報道機関からも多数取材に来館。改めて品評会から発展していった



(江口 舞)



(池田未奈美)

陶器市の歴史がよく理解できたという言葉をいただきました。

陶器市期間中には有田小学校5年生が、陶器市の歴史を勉強したいと見学に訪れました。それをもとに子供たちが考える未来の陶器市について、アンケートを実施し、その結果を届けてくれたので紹介します。

〈有田小学校5年生〉

- ・みんなで絵や口ク口を楽しんでもらいたい (淵野一誠)
- ・犬も入れるお店(食事)があったら安心 (西原志帆)
- ・戦争がなく一回も休まない、世界中の人が来るようにする (篠原憲太)
- ・200年も300年も続くような、世界でも有名になるような陶器市にする (大川内亮)
- ・今まで通りでいい、今の陶器市の方がいいから (宮本葉子)
- ・もうちょっと安く、コップなどを多く (近藤良太)
- ・おまけしてといわなければ安くしてあげる (山口りょうま)
- ・出店の品物のねだんがもっと安くなるといい (木寺ひとみ)
- ・下のほうにも店をたくさん出してほしい (山下ゆうすけ)
- ・ほかの町からいっぱい人が来るような陶器市に (諸隈そう)
- ・皆が楽しんで、世界中の人が感心できるような陶器市にしたい (松下せいや)
- ・お店が多くて明るくてにぎやかな陶器市 (大田瑞紀)
- ・やき物でつくった小物のお店がたくさんある、にぎやかで楽しいとうきいち (馬場結衣)
- ・お客さんなどいろんな人がよるこぶ陶器市にしたい (辻拓真)
- ・事故のない幸せな陶器市にしたい (浪口麻衣)
- ・生テレビでお皿が映っていた (樋渡まさし)
- ・もうちょっと歩行者天国を多くしたほうがいいと思う (松尾じゅんき)
- ・もっと焼き物で子供が楽しめる陶器市にしたい (牛草悠介)
- ・トイレの数を多くして、人を呼び寄せる店がいろいろの陶器市にしたい (草場卓人)
- ・人がいっぱい来る有田陶器市にしたい (江原ひでとし)
- ・楽しく明るく、けがなどが無い陶器市 (久保田真衣)
- ・もっとお客さんが楽しめたり、半額くらいの安売りを (黒川つぐみ)
- ・安くていっぱいあって、人でにぎやかで天気がいい陶器市にしたい (寺内貴信)
- ・今も楽しいけど、もっと楽しい方がいいなと思う (久保田のぞみ)
- ・お客さんがもっとたくさん来るように、かならずひとつの品

- には割引がある (藤井ゆうな)
- ・初めて来た人もまい年来ている人も楽しめるようににぎやかな陶器市にしたい (久部みかげ)
- ・ゼーんぶなるべく安くして、地図があったらいいし食べ物も安く、バラバラにあったらいい (森たくま)
- ・いっぱい陶器が売れて、みんな事故なくぶじな陶器市、雨がふらない陶器市 (蒲地佑麻)
- ・お店が何か工夫して、観光客がたくさん来る陶器市 (野中まり子)
- ・食べ物屋さんとかはなるべく安くしてほしい (相原千紘)
- ・道路は人が通るからなるべく店のないところ(ダムや小学校)に駐車場を作る (江口よう)
- ・めいわくがかかると車をあまり通さないようにする (坊所由佳)
- ・いろんな人とふれあえる陶器市 (豊村由希子)
- ・いっぱい売れる陶器市にしたい (浦郷陸)
- ・出店がたくさんあって、変わった形のお皿がうってあったらおもしろいな (田辺慎平)



〈特別参加〉

- ・四季4回それぞれに陶器市を開催する、若い人(大学生、高校生)のデザインした焼き物売る (森 学校長先生)
- ・子供たち同士での交流もできて、老人の方も疲れずに買い物や見学ができる陶器市 (八田実教頭先生)
- ・有田の大道芸人的焼き物売りの名物おんちゃん(おばちゃん)を売り出す。甲子園の売り子さんのようなアルバイトを募集し、道行き売り子を200人体制(売るものは冷えたビール、小物、ポップコーン等) (桃谷法信先生)
- ・食べ物の屋台コーナーが何か所かあるととっても楽しいし、焼き物作り体験コーナーがあるといい (山本博子先生)

「写真で残す ふるさと有田」

平成12年度から始めました「写真で残す ふるさと有田」の写真を募集しましたところ、91点の写真の応募がありました。

回を重ねるごとに有田の再発見があります。写真の中に、その土地に住み、生活をする中で見つけた小さな感動を見ることができます。

これからもささやかではありますが、今の有田を記憶していくこの事業を続けていきたいと思っておりますので、年間を通して撮影された写真の応募をお待ちしています。

・有田町長賞 (榎崎 晃さん)



特別賞 ・浦川友喜さん ・中尾正三郎さん

・有田町教育長賞 (石丸種子さん)



・有田町文化協会賞 (小川 武さん)



入選 ・田中直良さん

みなさんの参加、待っています！

★古を訪ねて「皿山ウォークラリー PartⅢ」

昨年からは有田町教育委員会生涯学習課と共催で始めた「皿山ウォークラリー」を、下記の要領で開催します。今回は内山地区の南側を歩きます。窯の辻(かまんつう)といわれた登り窯跡の密集地や、名代官と慕われた成松皿山代官の碑、手の先だけの不思議な「御手の観音」などを見学しながらウォーキングを行う予定です。

さわやかな初夏の季節です。有田の歴史を感じながら、心地よい汗を流してみませんか。

記

日時 平成15年6月4日(水)
午後1時30分 泉山体育館前集合
※申し込みは生涯学習課 ☎42-6207まで

★親子歴史探訪「クジラの島を訪ねて ～君も漁師になれる～」

毎年夏休みに行われている伊万里・北松浦広域市町村圏組合主催による、小・中学生の親子を対象とした歴史探訪が今年も開催されます。カクレキリシタンとくじらの島・生月を中心に、定置網を引いて漁を体験する企画もあります。夏休みの思い出のひとつに加えてみませんか。

詳しくは6月中に、各戸に配付されるチラシを参照ください。

記

日時 平成15年8月23日(土)～
8月24日(日)
場所 長崎県生月町周辺

お知らせ

当館では毎年研究紀要を発行しています。このほど平成14年度・第12号が完成しました。今回は有田郷新村の庄屋をつとめた「前田儀右衛門」について、その子孫の前田昭二さん（横浜市在住）に執筆していただきました。

また、昨年開催した「陶器市の思い出」座談会（要約は「皿山 No.56」に掲載）の全文も紹介しています。

詳しくは当館までお問い合わせください。

館からのお願い

— ふるさと切手のご利用を —



第100回有田陶器市を記念して、郵政公社発足第1号の「ふるさと切手」として「伊万里・有田焼」が選ばれました。その切手にデザイン化されたのが有田陶磁美術館に展示している「染付有田皿山職人尽し絵図大皿」と「色絵狛犬」（いずれも佐賀県重要文化財）を組み合わせたもので、4月10日に全国の郵便局で900万枚発売されました。

町の皆さんで、郵便をお出しになるとき、是非この切手をご利用いただき、有田町をPRしてくださいませようお願いいたします。

JR有田駅で 100回目の有田陶器市キップを発売

今年の記念すべき有田陶器市に、JR九州では「記念乗車券」を発売されました。有田↔上有田駅間ならびに入場券ともに160円です。まだ有田駅で発売中です。

あなたも記念に如何ですか。



ふるさとを訪ねて



100回目の有田陶器市に「東京・有田会」の47名が金ヶ江橘郎さん達の案内で、4月29日～30日の二日間有田町を訪問された。皆さんの顔は故郷に帰ってきたというホッとした表情で、泉山磁石場・歴史民俗資料館・大銀杏・唐臼跡・トンバイ堀通りを一足一足ふみしめるように歩き、陶器市の見物をされました。

街では、店頭で白髪まじりの旧友と久々の再会を喜び、墓詣りをしたり、親類を訪れたり、また咲き競う陶山神社境内のつつじのもとで幼い頃に相撲をとったことを懐かしく思い出しておられました。また、お孫さん連れのおじいちゃんは、泉山磁石場の洞穴で、この石で日本最初の磁器が誕生したのだと磁石を馬車で運ぶ当時の風景を話されていたのが印象的でした。

30日の夕方、佐賀空港より帰路につかれましたが、来訪の皆さんは緑したたるふるさと有田の山々を眺め、100回も続く陶器市に参加して「来て良かった」と満足そうでした。来年は101回、さらに多くの方々が「ふるさと有田」を訪ねて欲しいと願わずにはられません。（久富桃太郎）

季刊『皿山』

通巻58号（平成15年6月1日）
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185